

# 多読について思うこと

前田 喜寛(王子)

〜最近多読が楽しくなってきました〜

早いもので、英文多読を始めてから約9ヶ月が経ちました。

多読を始めたきっかけは、9月(だったかな?)にあった豊田高専の西澤先生の講演会。普段何気なく通っていた図書館の階段の掲示スペースに講演会の案内が張ってあったので即申し込みました。

英語については、「いつかしゃべれる様になりたい」「くらの思いはあったものの、英語習得までの道のりがまったく分からないので、なんとなくTOEICの問題集を買ってみては本棚の肥やしになり、スカイプ英会話を始めてみては喋れなくて挫折して。そんな感じの繰り返しでした。

皆さんも経験があるかもしれないけど、英語つてやつぱり「学習」って感じが強くて、いざ英語に取り組むとなると机にノートと参考書を広げて・・・とか、いやいや、もう中高生じゃないんだからもっとフランクな感じで！って思いながら受験で使った単語帳を読み始めて・・・で、やつぱりしんどいから結局続かなくて。それでも「いつかは」みたいに思ってたままに来る個人的な英語学習ブームに乗ってやつてはみるものの続かない。僕にとってはそんな感じが「英語」というものでした。今までは。

まだ、多読を始めて10万語を超えたくらいで、劇的な変化があったわけでも映画が字幕なしで観れるようになったわけでもないけれど、最近、多読が楽しくなってきました。今までの、気合一辺倒でやる苦痛の英語学習と違って、図書館で新しい本を借りて、どんな内容かわくわくしながら読み進めていくことが、ちよつと楽しくなってきたのです。これって地味だけどズゴインじゃないかと思っています。

多読を始めた時は、一生懸命背伸びしてマジックツリーハウスあたりを読んだりもしていましたが、1冊読むのに1週間もかかってとても「多読」といえるものではありませんでした。そこで、毎月第4金曜日にあるTTT(たじみ多読を楽しむ会)で皆さんのやり方を参考に、あと西澤先生の「まずは簡単な本から!」というアドバイスなんかも参考に、ORTを少しずつ読みながら、ただそれだけでは退屈してしまうので、ファウンデーション、マクミランのYL0・5〜0・8あたりを集中的に読んでいきました。割と簡単な単語で書かれているのでサクサク読めて、読んだ冊数と単語数が簡単に増えていくので、この頃は内容云々よりも単語数が増えていくことが楽しくて多読をやっていました。ただ実際、YL0・8くらいだと内容としては薄いものが多く、大人が読むには物足りないもので、内容以外のところにモチベーションを置くといけないんじゃないかと思いました。本のリストを簡単に潰せて、しかも「やつてる感」が高いところが個人的にはポイントです。これが4月、5月あたりの出来事です。

次に、多読提唱者の酒井教授が言っていたのですが、「多読は成長が分りにくい」だそうです。5月中旬頃、ルーティーンと化した「簡単な本読んでリスト埋める作戦」に、本格的な飽きの波が押し寄せました。図書館に來ても「めんどくせー!」という思いが強くなってしまって、リストを埋めていくスピードが下がり、リストが埋まらないことで「やつてる感」も下がり、なんとなく多読がダルくなってしまいました。

そんな時に、酒井教授の講演会で、

「聞き読み」(付属のCDを聞きながら読む)がいいよ!という話を聞きました。早速やつてみようと思っただすが、ファウンデーションもちよつと飽きちゃつたので、聞き読みをする時に、YLを上げてみたらどうだろう?というちよつとした思い付きで、ケンブリッジのYL2・6を聞き読みしてみました。すると!なんと今までYL1・6以上は敵しいくなんて思っていたのが、意外と読めてしまうということが分かりました。しかも、YL2・6になると、単語数は7000を超えてきます。そして聞き読みなので、CDのペースで単語を追いかけていかないと話しいけないので、集中せざるを得ません。さらに単語数7000くらいであれば、1時間程度で朗読が終わります。こんな手軽に単語数が増やせて、しかもそこそこの内容もあって面白い!おかげで少し下がっていたモチベーションがだいぶ上向きました。酒井教授ありがとう!

聞き読みでYL1・8〜2・6あたりを攻める、というのがこ最近の僕が多読のやり方になっています。

ここで、少し前で触れた、「多読は成長が分りにくい」ということについてですが、聞き読みをしたことで気づいたことがあります。それは、成長が分りにくいというよりは、「気づいたときには成長していた」という現象がある、ということです。自分が読めるようになった、という感覚が全くないので、これまではリストを埋めるために本を読んでいたのですが、そもそも多読を始めた目的は、英語力の向上です。なので、自然と欲が出てきたり、ふと我に返ると、「あれ?何で多読始めたんだっけ?」というような疑問が沸いて来るようになっていました。

偉いもので、体は本来の目的をなんとなく分かつていて、別に、このままのレベル付近で進めていてもいいんだけど、もうちょっと先のレベルを読んでもいいんじゃないのかな？と提案するかのように体が反応していたんだと思います。

そう思い返してみると、多読を始めるとき、マジックツリーハウスを無理して読んでいた時も、最初はそこそこ楽しんで読んでいたんだけど、だんだんと苦痛になってきました。そんな時に「YLを下げる」という(僕にとっ

ては)新しい情報を手に入れて、新たなスタートを切っていたり、その後に、「ORTは読むべきだ」という情報を手に入れて実践していたんですが、だんだんORTも楽しめなくなってきた(僕としてはもつと「読書!」という感じが欲しかった)、YLO・8あたりを中心に進めるようにしてみたら、少し前よりちよつと楽に読めるようになってきて、またモチベーションの維持に繋がったり。で、何が言いたいのかというところと同じことをしているとやっぱり飽きる。ということなんだな…と思ったわけです。自分の成長曲線がホントに分らないけど、読んでいると、読み続けていると少しずつ英語にも慣れて、少しずつレベルアップもしていってしまふんですが、ホントに、本当に自分だけが自分の現在のレベルを分かっている。という状態になります。(僕の場合)

なのでこれを逆手にとつて、少しでも飽きを感じたり違和感を感じたら、YLを上げてみたり、多読マガジンを読んで多読の進め方を調べてみたり、それでもモチベーションがあがらなかつたりしたら、1週間なり2週間、全く多読をしない!という時間をとつたりしています。ちなみに僕はこれを「寝かす」と読んでいます(笑)

今までの勉強の観念からすると、少しでもやらない期間があれば、それだ

け遅れをとってしまう…というような印象なんです。体がやりたがっていないのだから、きつと熟成させる期間なんだと、自分が天然酵母にでもなった気で他ごに勤しんでいます。で、寝かせてみてレベルが上がるのか?というところなんです。残念ながら直接的なレベルアップには繋がってはいません。ただ、モチベーション維持というか、下がりきつたモチベーションにどめを刺すようなことにはならないので、寝かす時間があつても全然大丈夫だと今では確信していますので安心して寝かせています(笑)

ただ、恐らくこのモチベーションの低下した時期に、一人で多読活動をしていると、これを「挫折」と感じてしまふんではないかと思うわけです。

そしてこれを阻止するために、「仲間」が大事だと多読実践者が口を酸っぱくしていつているんじゃないか、と思います。ホントに多読は、成長が分かりにくいです。もし一人でやっていたら、YLが上がっていく楽しさすらも知ることなく撤退してしまつたんじゃないかなと、多読暦9ヶ月にして思いました。なかなか、人に言われたことを素直にやれない性格の僕ですが、やはり先人達の知恵に間違いはないな。と思いました。(最初は正直、仲間とかいいからどーやったら早く英語の本が読めるようになるのか教えてよ!って思っていました…。恥ずかしながら)

最後に、今日の多読会にしても、こうして同じ趣味というか、同じ目的で同じことをする仲間と会う機会というのは、かなり貴重な時間なんだと思います。なので、僕の個人的な見識で、間違つたことも書いているかもしれないですが、少しでも役に立てるようにならう(ちよつと)こうした読み物や何かしらの企画を考えていこうと思つていますので、これからもよろしくお

願いします。伝わりにくい部分なんかがありましたら、直接本人に聞いてもらえたら幸いです。